



初學訓

二

九

□ 9
4457
2



中るゆゑなまらう顔かたがはの色とわりけ言
乃ちとよろこびて母の氣體きたいの安否と
うかひ其時日の要用と云のべるの同い世
の中れあつて来りてつらなる物とけり
多し母の心とちかち母の心をあは
はしてまゝて母の心とよむりて
くひりてまゝておこるるは母の
うそへ命とる事あつてはしてまゝと
多しとちかちるるはゆるやんとする事

つらなる心もつらなる事ありて
てはしてまゝておこるるは母の
まはりてまゝておこるるは母の
はりてまゝておこるるは母の
とらふちかちるるはゆるやんとする事
教をよき事とちかちるるはゆるやんとする事
くは母の心をあはれおこるるは母の
る其心をあはれおこるるは母の
樂はちかちるるはゆるやんとする事

了對ておころする公樂つご父母のようこ
つる公悦つへ一のむる人とじりうくやん
久くお對する公のうく興げやんおほひて
退屈たいくつしうあつくひ若しむいお教しよこな
うかけする也又孝とつて一孟子よ大孝
の身とねらるはく父母とあつてつり是
つらるは父母とあつてふを公一せり同
失あひさる也慕の字身をねらるもつり
うつ又外あし出いさし必父母はく帰かへり

必先父母よまみえくほりの命は退く行くと
わさる常の處わつてつらるはゆくとあつ
はひのつらありてねとつらる身の内と
つとつてはく先て不義を體乃行なく氣
どつて放逸はういつなるつらるは悪友のまつ
はく父母よまみえくはつらるは是
孝の志しよなり

養體やうたいしつ父母のに腹身體と中ちゆうをよつて
家の力ちからなるは飲食おんじをよつて

父母の好む物をしてすじへ富貴の
人の好む物と飲食とをんといへ其味乃
よし物といへといへるはあつたるとあり
ひへ又夏冬やうくの身にあら衣服を
あつらてこれとて居る寝るとあり
しめ冬は温く夏は涼しく風寒暑湿とぬ
れた身にあら調度ありくのうへもの
事うけざるやうに人のこころにむかへ
の身とて居るよの飲食衣服居室器物を

不足なくするにありける者是とてぬ
ひけていへるしへ物うさうちるうは年を
て脾胃よく元氣よくけむの飲食乃
養むるなりぬるの財ありぬる味は
物をとてあつた人のうへに詩よ人生
有禄親白歌何能一日無甘饌又曰古人
一日養不ぬ三公換といへり又人の俸給
よりぬる風を暑湿よやうとて其
ふもあつたといへる飲食と風を暑

淫レ也レ終レて節ハ不レ修ルるレ也レ一レありと
 してレも痛クとレなりて害ハ必ズありとレるレのレ丈ハありお
 ころりたク其レ節ハをレ守ルてレ行キ坐シ立シは
 ばレのレも必ズつキまシてたトけテころりテ一レ是レ禮ヲ
 中ニよりレ也レ父母ノはレつクに志ハ必ズありとレ體ヲ
 守ルるレのレ二ハ必ズ孝ノ道ヲ終レつレ也レ内ニ
 一ハ必ズ敬ノ二ハ必ズ節ノ外ニはレ孝ノ志ハ必ズ體ヲ
 乃レ二ハ終レつレ一ハ是レ必ズ敬ノ名ヲ必ズてレ父母ノ
 孝ノ道ヲ守ルるレ只レ體ヲ守ルるレのレ二ハ必ズ志ヲ

と中ニありレされいハ孝ノよクはレ其レ身ニ無レ禮ハ不レ義ヲ
 終レいハ父母ノをレ終レつレ一ハ必ズ孝ノ道ヲ終レつレ也レ
 味ハ必ズ口腹ノ中ニありレとレもレ不レ孝ノ也レ
 け内外ニ乃レ事ヲ守ルるレされいハ孝ノ道ヲ守ルるレ
 と是レ人ノ子トるレるレ孝ノの必ズありてはレとレ終
 終レつレ一ハ必ズ守ルるレ也レ

一ハ父母ノ身ニ過スるレ子トるレ者ノけの敵ヲ
 終レつレ一ハ必ズ守ルるレ也レ言ハ必ズゆるレやレありてやレ
 中ニありレ一ハ父母ノをレ守ルるレとレ用ヒてレ一ハ終レつレ也レ

いふは父母を孝とせしむるは父母の命に同じく
つらばは父母の命に同じく父母の命に同じく
るは父母の命に同じく父母の命に同じく
らあつては

わが孝の道は父母の存生は同くはつて
のこるは父母死しては母を孝とせしむる
やうじつとあつては孝とせしむるは
わが孝の道は父母死しては母を孝とせしむる
あつては孝の道は父母死しては母を孝とせしむる

をばはつては孝の道は父母死しては母を孝とせしむる
孝とて父母の命に同じく父母の命に同じく
つらばは父母の命に同じく父母の命に同じく
るは父母の命に同じく父母の命に同じく
らあつては

皆君恩によりてけとく衣服居室器物
系乃財用まて皆是君のまはりのなる
其恩甚大かりつの小其恩公ひひてさる
つらに公ひひめく君よはさる人のひくみ
君のこめよ忠公乃志して私をひまら
身とくこんる事かう終

君あるあらの諫じし君の寤てと失らんる公ひれ
されてつの身と私と私とくらに君とい
さしるに君乃恩とついあらから言はれ

あくていらあらそよへらに君の公れちる
あらうらあらり奉つそら終と不らて
わらりあらきあらうらあらるらと人
し物事とれの其諫入中とし是物といる
小はとよりとらの理かりあらきあらうらきあ
よりいさめ入こしらなり君公いさめ親とい
さしるよははあり其はとまるんてあらし
君長父子の大倫かりなり忠孝乃二の終め
ららとけくとしらのらまらいされん

徹乃志ありても其道を志し以て正理を
 行ひて一往の忠孝の二は志ありても其
 道を志しされい忠が不忠なり孝も不孝
 よからあはれむ又孝の道とよく言ひ其
 法を志りて行ふるは古人も孝問の忠と孝
 とは別なりあはれむといふ若し若ありといふは
 忠孝乃道とすくは君子とすべし

夫婦の別と道とす別とい内外夫婦の
 らありて混^まれざる也夫婦ハ子孫乃相

けくあふして人倫のりり也夫の内外とあはれ
 婦の内は外とあはれ婦に禮義正しく婦ハ
 夫と和順ありて然るふ別とすきたははら
 せて教と和と混れざる人其道とて婦人
 は多くい愚なり道とあはれとて正とて
 いろくはれいれいれ和を失ふ

兄弟の同胞の志とて父母とつぎて人倫
 たりて親の内父子夫婦よりほくは
 久しきハ兄弟あり其志とて久しきは

樂しむ一兄の弟に思ふやうく弟は兄より教
 わるくとも一兄の弟ありて思ふて思ふと
 うまくとも一兄の弟は兄を以て思ふて不致
 なるやうに各々の道を盡さんと一兄の兄は
 思ふて思ふやうく一弟は父母の子とされし我
 の子より思ふと一

朋友は位高あつて一もつひよ高ぶるとも思ふ
 一は思ふ是朋友乃道也一は思ふとみるやう
 と思ふさうに終つた也朋友の道にあつても

又朋友のきよのりけありて難われのお勉を思
 われに相救ふて一右の人の朋友乃思ふわら
 ずのりけありて今時の朋友はまうと
 さうめくちうに思ふ古今人情乃かゝれるやう
 凡人倫の道朋友の道一は思ふやうの思ふ
 て思ふ理るまの朋友も亦思ふた人倫道
 道を教ゆる師も亦朋友の内をそむおのり
 君父と同くまう一は思ふ乃師の道はと
 し一は師より及はされと思ふ又我は思ふ

尊くして一人倫の尊ぶ親疎あれども皆
 一類されん仁を以て情ありてはとめて
 わつて終つて一聖人の教ゆる所學者の道も
 一人の道とする所皆人倫あり人倫に
 是れ情をたふたの人たり人道を失つる也
 人倫を失つるはけりおろあつくとて今一
 くとくは或けり先よあつたれとおつり
 うすもつる人よまわつる道と失つる也
 君を
 のまは久しく志くよくわつて一人よ度

一四恩あり又四孝とん天地の恩又母の
 恩又君の恩聖人乃恩也天地の生の神あり
 我とらん我と中かひ終つた孝とらん又母の
 生れ奉也又君の養の奉也聖人の教の奉也
 天地よわつたれは生告れけりめは父母はわ
 されは生れとる君よわつたれは告れとる聖
 人よわつたれは教をくして人乃道を志つた
 書紙よらん孝問とらん人乃道を志つた
 わつた書紙よはとらん人もわよの孝とらん

君よの忠と人さ事ととらひ足すの事と夫婦の
 別と志わらひ天性の良^よ知^しされど又志^しくあ^らず
 聖人の教あまのく^りの日の本ゆ^く傳^はりたる
 教され^ば無^きま^らず人も聖人乃^り恩^をう^けた事
 をさ^らふ^べし^は四^恩の人の幸也人^はる者^はつひに
 考^へて^はい^てつ^とる^べし^は身^をと^れる^まま^はは
 とめて其恩と必^ず報^じと^もま^らず也四^恩は^はさ^らぬ
 人^は備^へよ^し必^ず恩^をう^ける^べし^は人^はあり^しと^らん^べし^はあ
 今の世^はは^はら^ぬ人^は亂^れ世^はに^ある^に治^める^べし^はあ^らぬ^べし^は

大^にち^かる^幸き^り見^え世^は治^り終^る大^に君^の治^めり
 也^也大^に君^のあ^らる^に天^地と^も大^に母^とと^らん^べし^はあ^らぬ^べし^は
 一^にる^君の上^になる^大に^君なら^ば其^の治^める^徳は
 よ^りて^世は^はら^ぬの^身安^樂に^は世^はよ^しと^らん^べし^はあ^らぬ^べし^は
 是^も亦^に四^恩の^人の^恩を^うけ^る其^の治^めり
 三^には^あら^ぬと^らん^べし^はあ^らぬ^べし^は
 い^ふべ^しは^は亂^れ世^はの^時は^はさ^らぬ^力ある^者は^はつ^ひに^干
 戈^を事^として^志す^べし^は我^のそ^の力^をた^らぬ^者は^は
 糧^をけ^くて^世は^はら^ぬと^らん^べし^はあ^らぬ^べし^は

安堵の思ひなり是と思ひて今の太平此時代
乃安穩^{あんごん}ありて無事なる所樂しむ
農工商の君ははくとしとて又其國郡とお
さめ給ふ君恩はとすくくは 又君の御めく
みやよりてくは太平の樂とてく於事はより
くく

國土はなすめ給ふ君の民とくくたすむは
くく民といはくくすめくを以て職分とて
是民の父母され其上下と美民とをくく

情くくあされくくくく一人の樂は專ら
して民とく給はくくく不仁なり上にあれ
民も亦其くくくく君はのくく事
父母のめく給はくくく上とあれく
仁あり下の上はをくくして義あり上仁
わり下義あり上下和合く國土平安あり
一條肉土民の奇ふ民やとく國ゆくくく代
りもく君はくくくくくくくく
くくくくくくくくく美民のくく

君の徳也はくふりてくをうとふく
 元人は義理わり利害わり義理の天道に志する
 て仁義の心とならむ傷の道とけくを利害
 の心とて各其の業とつらめ衣食居るは求
 けりてをくを好て身と求ふと云義理の心は
 古の財利の身を求ふ元人の日夜のまじりま
 事け二の命にこれたり御らの義理の心と求ふ
 小なりておの利害の身と求ふの義理の心とされ
 是らるは二れ^{きんぐらう}と云うて義と云ふは利をい

しと一義と貴の利との中じの君子乃ち也
 利と貴の義とけくをくは小人の心也君子小
 人の別は義と利との間あり
 たりて人のこむ事多くとくも其の心なる
 事二ありしは富貴とこの心二は長生は
 この心よりの義理とこの心けくは恒常あり
 富貴とこの心けくは長生とこの心けくは長生
 をこの心けくは義理とこの心けくは一人の好む
 不乃恒常をのけくはけくはなるのそあり

このひも道理の程も亦自へのあ
此より下りたれとていふ人ききたりや
はうゆわらうたう皆是とこのまより人
まの富貴とこのひより長生はこのひ事
たりのとはいふや富貴といは祿多とて
富とて位きとて貴とて富の國とてあ
貴とての國とてありの富とての國と
人ありてらんらにむとてあ人の位と
一とてあらんら命とてうとてあ

いふる愚人もこのらとてあて國とて王位と
得んと思ふ者あり一是た富貴とてとて
命とてあんとて移りてあ人のあ一然れ
富貴とこのひより長生はこのひもあ
あ
長生はこのひより義理とてあひるあ
いふや君とてわよのひも義とてとて命と
とてあひる及んたあひるあひる
道とてあひるよりの愚人ありあひる

不義の友と曰備し殺し乃至は河支とて控て
 逃げ去る事ハ士さういをどうする者ハせば是命より
 義理ハ物ハ然有るや又どうする縁と
 得て君よけどう下教と主人のどうのらそ
 どうのいどうとから一言のどうのいどうを
 ても義よ物おそ忠ひとて命と持るどうい
 かり國土と王位ととどうの命をさ
 とも義理ハ命よりけどうふたのさあよ
 いらどうの中さ物どうあるも教とては命と

控て義理と約ハ是とみく長生はこのせよと
 義理をこのじろのわたりと志とて賢人
 のとけ公あるふ何れは徳人皆け公あり是人の
 本心なり只賢人の常に此を公失つとさだ
 よいら利害の身と中らよいらの義理の公
 を公らよいらの是とさ地志くれの義理ハ
 ありてわりの利害ハ身のあせらなりとい
 つても義理よくあれいらとてと
 て程子も義小射なりといつて射とは義

乃貴^くと^りく^る物^をま^しの^きと^りく^る也
 天下に義^をた^しめ^ばた^けた^け也^と志^する^は也
 愚者^の利^養の^つみ^ぬ道^とり^くる^は少^の利^欲
 小^りと^く大^から^り義^理と^失ふ^は是^れ私^欲の^迷
 て^本公^のい^わら^ぬを^私失^ふの^知と^くる^は
 乃^の義^理を^持て^財利^とと^るの^者と^りく^る
 乃^の金^を持^て一^斤の^銅と^とる^は一^斤の^金
 絲^を志^する^は也^と愚^者なり^とつ^て一^人の^愚も^義
 理^とこの^き公^のい^われ^と私^欲は^たし^て義^理

乃^の物^を持^てと^りく^る是^れ本^を失^ふは^ちかり
 乃^のき^財利^をと^して^ちり^てま^しは^る義^理
 と^持る^の者^と一^人の^雀と^とる^はと^て寶^玉を^持
 ず^てふ^とて^ちけ^るの^者也

人の身^れり^てい^ふ言^ひの^二に^{あり}是^をと^ける^は
 て^也と^くち^とと^りの^身と^をた^しじ^の道^{たり}
 也^と人^の言^ひの^二に^{あり}の^者り^の也^とい^ふ
 乃^の言^ひは^たし^てと^りと^りと^りと^りと^りと^りと^りと^り
 一^言の^言ひ^とち^とと^りと^りと^りと^りと^りと^りと^り

足るに似たりは約の帯におこりややく
 不足多しはたこりやくとらふつやあま
 つまわり程ありく約あり
 公は五官と云身あつのまひて思おもはひて友とす
 耳目は鼻形と五官と云耳はまて目まはこ
 口は物つひ物はくひ鼻は香はくま形はく
 こく是又のつらとら也友といはつとら也
 役とつらとらと云公は五官の思ありあ友の
 公の使ふもの也をたらく思案してあ友のいふ

ると禁かへんぐあ友の役とはありじつある人は
 主人の部下とけりよ各其官とらひつきて
 けりよじつありけりよのこくとれの理ことあり
 て案れとゆりり公は思案なくあ友と制さへ
 せざれいあ友なくわまはてははき非
 禮とてまてはき非禮とてまてははき
 非禮とらひくははき非禮とらひく是
 公の思案なくあ友のまてて公の友とけり
 るら也公の思案なく主人の部下と制する

ちうきくうて下人より制せしめり
 送ふて家ねたまらう
 人の心身のまぢり公の友のさうをける
 さうの思案をけしむる官と失ひて職を
 定かくかり家はさうなく軍に大将たり
 此一年目に俸の欲はひらき思はるれれ
 てねさほら毎日口くさうの身はけり
 事くふふ思案はけしむて言は出
 してはけりいあやまりすくなく後悔とくは

人のあやまりさう一思とけり皆思案せられ
 かりよく思ひて思はけり後悔
 さう九身のけり後悔さうのさう
 ひらく書はよん学問てもく思はれ
 道理は通せしめてめらうはは
 孔子も学んで思はれりしとのさう
 古今書はよし人の多かれと道と知る人
 かりの書とよみけるのさう思はれ
 思ひて思はれりしとのさう

けいめいなるを思ふ乃ちまゝに其
 徳進まざる也一思の正ま其益大なるれ
 神と人とちなりつひよお教のなとならて
 志つと失ふつひは忠と人とのあはれは
 人をあはれつらんやなる也其はつらの
 せいふたふよりその厚薄品のあはれ
 さんてつたれとていふもあはれつらん
 なる人一教とい人ともやまよとていふ
 うらんやなる也其位のあはれはあはれ

高教の浅深いかんもすてらまひあは
 つつは忠の志つひはより生れ教の貴
 せよとていふもあはれつらんやなる
 高の真のお教也親疎貴賤とてお教と
 はの仁也親疎貴賤の品よりして厚薄
 わるの義なりお教乃ち二の言をかり
 こふといふも教とていふ也是人倫と
 乃道即天地の道也
 人とていふの同教とていふもあはれ

たふ也。是、不仁ありて愛かた也。同類とあかて
り。おらんてるいづらよとるいふ不敬たるを
禮也。不仁と不禮の悪なり。むいほしひし人
そつとてむし理にわらも辱まき道にわら
況況よるる人や人そつはの道理にそむ
くのそむは必身の猶とちる人そつれい
人も亦我とそつ於天よじういてつたをそ
つぬそつらる人し一生の恨とある人を
そつとそ人志ほまそつとて思ふの思也。海

君ヲ非シ
國ヲ空シ
不仁也
不忠也
不孝也
不可論也
切論也
是也
三也
四也
五也
六也
七也
八也
九也
十也

千里をゆく理あり壁より耳ありと思ふは
あふつまを君上と云ふは、大不敬ありて其
は、大かりに倍よと居の悪い。莫大に
君とつりり人ありて君上とそつらひり身
り。は、くんでつらひり身政道よあり
つらすんぬ國家の政事と議とるるが
君上のひらつとありとも居る者いひて云
つらひ古語より其國よ居るは、其大夫をも
そつらつとつらひ是忠厚の道なり。政君と

その法はつらつらと来るいふよ及んば
 世に海よりなるよハ勢とある人ハ勢付く死は我
 ぬ理ありてもわらうこしわらうとあるハ
 わらうそいふこころ人ハそれとも何れも勢ある
 人ハ志こころいいて馬とるハるつこころか也

初学訓卷之二



教訓
 繪入 閻路指南車

全二冊

人好欲する所の家業繁栄し富貴ありて子孫永続
 福ぞとぞいふはた人ハ過く悪送る事もむく人も此書に
 身といたらまら善送る翻り父母存養法は
 主人ハ忠孝を以て家内和合し自らの家業繁
 栄此心も安樂し子孫長久しむる事近なる
 事ありてくわくわくして書なり

弘化三丙午新版

浪速 河内屋喜兵衛

